

# りんご黒星病対策 春先の耕種的防除の徹底を！

今年度は平均気温が高かったことや、適正な散布量と散布間隔の徹底等で黒星病の被害は少なかったですが、依然として油断はできないので、黒星病のまん延を防ぐために、春先の対策として感染源を減らすことを目的に、耕種的防除（被害落葉処理）を徹底しましょう。

\* \* \*

■ 雪が解けたらできるだけ早く被害落葉の処理を行いましょう。

※処理方法 { ①集めてほ場外へ搬出・処分  
②わい化栽培では樹冠下へ集めてすき込み

区	果そう葉		新梢葉		果実
	発病率(%)	発病度	発病率(%)	発病度	発病率(%)
集めて処分	13.4	4.4	11.6	4.0	1.5
無処理	50.4	18.0	45.1	20.0	9.0

☆処理の効果…黒星病が発生した園地では、「春先の越冬落葉除去やすき込みの処理を行う」と、黒星病菌（子のう胞子）の飛散及び黒星病の発生が抑えられるという結果が出ています！

区	果そう葉		新梢葉		果実
	発病率(%)	発病度	発病率(%)	発病度	発病率(%)
すき込み	9.5	3.2	2.2	0.7	0.0
無処理	10.4	3.5	5.1	1.7	0.0

資料提供：青森県産業技術センターりんご研究所

## 園地の管理による発生状況



- 薬剤の到達しやすい剪定や園地作りを心懸ける。  
(薬剤が樹全体に行き渡るように)

資料提供：青森県産業技術センターりんご研究所

☆「薬剤が樹全体に行き渡るような剪定」と「SS走行ルートの見直し」で薬剤が樹全体に行き渡るように工夫しましょう！

ウラ面あり

- 自園地の展葉を確認して、展葉1週間後頃の薬剤散布は適期に行う。(散布タイミングを逃さない)
- 薬剤は基準量を丁寧に散布するとともに、気象情報に注意して、降雨前の前倒し散布を実施しましょう。
- 前倒し散布により散布間隔が空き過ぎる場合は、落花10日後～20日後の間に殺菌剤を特別散布しましょう。
- 菌密度を下げるため、被害葉・被害果は見つけ次第、摘み取って処分するか、土中に埋めましょう。果実は果梗ごと摘み取りましょう。

### ○越冬落葉の除去



### ○越冬落葉のすき込み



### ○被害葉・被害果の摘み取り処分



葉の病斑



果実の病斑



摘み取った実を集める



土中に埋める